

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011 年度 JASSO 派遣報告書

報告者氏名 吉沢加奈子

23 年度 (入学)

1.研究課題： インド、ミゾラム州における青年団の歴史変容(1947-2011)―分離独立運動から社会向上運動へ―
2.派遣期間： 平成 23 年 8 月 17 日 ~ 23 年 11 月 12 日 (88 日間)
3.今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください 今回の派遣では、研究対象である青年団の活動とその歴史について調査を行う事が第一の目的であった。青年団の中央本部ではインタビューを行い、集落毎に置かれる支部では幹部と一般メンバーへの聞き取りの他、主要な活動内容の一つである葬儀に同行した。 中央本部との接触で今回明らかになった事は、1966 年からの分離独立運動の指導者と青年団との関与である。青年団は公式には分離独立運動や特定の政党との関係を否定しているが、あくまでも「一ミゾ人として」、各時代の政治的指導者が組織の上層部で影響力を持っていたようである。さらに、ビルマに居住する類縁部族も含めた民族統合の運動を行っていたことも明らかになった。この調査結果をもとに、今後は特に 1940 年代から 60 年代後半にかけての政治・社会変容と青年団の活動の関係に焦点を当てて史料収集、分析を行いたい。 集落毎に置かれる支部の活動については、滞在先の支部メンバーと良い関係を築き有益な情報を収集する事ができた。地域の総合扶助活動の中で最も主だったものとされる葬儀に同行し、地域住民が亡くなった直後から棺の埋葬までを観察することができた。この活動で特徴的であったのは、ミゾラムで独自に発展を遂げたと思われるキリスト教の信念との関わりや、伝統的道德律との関係であった。青年団とミゾラム社会における新旧の文化の相互作用について、今後さらに研究を進めていきたい。
4.自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について 今回のフィールドワークは初調査であり、語学研修プログラムも兼ねていた事と滞在期間が限られていたことから、博士予備論文執筆に必要な史料収集や調査を完全に行う事はできなかった。しかし、人的ネットワークが重要視されるミゾラム社会において一定の信頼関係を築けたことは、今後の調査に非常に有益だと思われる。今回は人口規模の大きい主要都市で調査を行ったが、ミャンマーに国境を接している地区やアッサム/マニプル州境の地区では青年団の活動内容に相当な幅がある可能性がある。調査期間中に宣教師兼学校教師としてそうした州境の村々へ派遣されている人と知り合いになることができた。時間がとれず同行はできなかったが、次回の調査ではいくつか特徴のある地域を訪ね、青年団の活動の多様性について明らかにしたい。予備論文執筆のための史料収集としては、青年団本部との関わりが引き続き重要である。本部に設置された図書室や機関紙を発行するプレス・ルームから、特に 1940 年代以降の史料を収集したい。英領統治初期の史料としては州の公文書館を活用したいと考えている。さらに、ミゾラムの大学・カレッジの講師やキリスト教会関係者ともつながりを深め、今回調査しきれなかったミゾラムのキリスト教化の歴史についての史料も集めたいと考えている。
5.本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？ 航空券の手配から帰国まで、学生の自由度が大きいプログラムである点が非常に良かった。途上国におけるフィールドワークと言えども山岳地帯の辺境州に行くには費用がかかり、こうした金銭的サポートを受けられた事は非常にありがたかった。 インドでは現在学生/研究ビザの取得が難しく、観光ビザでフィールドワークに行かざるをえない状況が続いている。さらに、観光ビザは一度出入国すると 2ヶ月は再入国できず、ビザの再発行は現ビザの失効後 1ヶ月経ってからという規則がある。こうした状況から、プログラムにおける滞在日数や適用される期間についてより柔軟な対応をとっていただけると有難いと考えている。

署名